

まほろば

2015 - 8 月号

自然農園だより



宮下 洋子
Hiroko Miyashita

中央遠方に見える建物が「福島第一原発」!!

興農ファーム、その後

まほろばが推奨する牛・豚肉の生産者<興農ファーム>が倒産しそうになった時のことです。まほろばを含む全国の有志数人で<興農ファーム経営者会議>を立ち上げ、応援してきたことは、お客様にも多大なご支援を戴いたこともあり、まだ記憶に新しいと思われます。

お蔭様で、競売は免れ、色々と複雑な紆余曲折はありましたが、今年の4月から、『新知床興農ファーム』と、名前を変え、再スタートすることになりました。更なる品質の向上を期待する所です。

お客様と共に生産者を支える事が出来ました

興農ファームを支援するカンパや、<チャリティー講演会>、厚別店長による<チャリティーお好み焼き会>などなど、多数参加して頂き、本当に有難うございました。

これらは、まほろばからのカンパと共に、母豚を買う為に使われ、まほろばでは豚肉の供給にほぼ欠品を出すことなく、今日までつないでくることが出来ました（優先的に供給して戴きました）。重ね重ね御礼申し上げたいと思います。

中島先生とのご縁

その時の<興農ファーム経営者会議>のメンバーの一人に、当時、茨城大農学部学部長（現在退官さ



2012年1月興農ファームにて。右端が中島先生、左が興農ファームの本田さん

れて名誉教授)で、日本有機農業学会の会長の中島紀一先生がおられました。先生は、多くの本も書かれ、興農ファームの本田さんと共に、国会での有機農業推進法の制定にも深く関わられ、学問だけでなく、日本の農業や里山を再生される為に、東奔西走される実践的な活動家でもあります。

何度もお会いする内に、まほろばの経営思想や、食養思想にも深く関心を持って下さるようになりました。

何故、興農ファームの肉が素晴らしいか？

また、何故、興農ファームの肉が素晴らしいか？という事を、脂肪酸組成の面から説明し、納得して頂きました。それはトウモロコシを飼料にしていけないという事でした。

豚や牛を放牧し、自家配合飼料で育てている所は、少ないとは言え、無いわけではありません。また、エサを発酵させて与えている



健康に育つ興農ファームの子豚ちゃん

所もないわけではありません。

トウモロコシを主体にした輸入の濃厚飼料が高騰し、採算が取れないという事で、国内産の自家配合飼料を使うところが増えました。その為に、飼料用トウモロコシが生産されるようになりましたが、トウモロコシを大量に使うという事に変わりはありません。興農ファームが決定的に他と違う所は、トウモロコシを使わないというところでした。

大切なのは、自家配合飼料の質とバランス

トウモロコシは、リノール酸の多量に含まれる穀物で、植物油などで、リノール酸を多量に摂り過ぎた現代人には、もう、これ以上要らないのです。リノール酸の取り過ぎが、炎症やガン、アレルギーなど、万病の引き金になる事も分かって来ました。リノール酸は、極力控えた方が良いのです。

興農ファームでは、カロリーの高いエサを控え、繊維質の多いエサを与えるという方針のもと、トウモロコシを使っていませんでした。それも大切な事ですが、リノール酸に偏らない自家配合飼料だったという事も肉質を左右する大変大きな要因になっていたのです。

中島先生や興農ファームの本田さんと、そのような事を語り合いながら、興農ファームの復興と共に尽力して来ました。

被災地 福島を訪ねて

以上のようなご縁から、この度、中島先生より、福島の二本松での講演を依頼されました。

先生は、福島の復興にも大変尽力して来られ、放射線量の高い所でも、作物には意外と吸収されていないという事を計測され、発表されたのも先生でした。

先生から、「二本松は、福島の農業を守る為に立ち上がっている今一番元気のいい所」だと紹介されました。もとより、被災地の応援になる事なら、むしろ、こちらの方でお願いしたいという事になり、7月11日に行ってまいりました。

先生の車で被災地を

先生自ら被災地の様子を案内して下さいという事になり、そういう事なら、主人も是非とも便乗した

いという事で、たまたま別件で、会津若松に来ていた主人も合流し、一緒に見学させて戴くことになりました。

茨城のご自宅から自家用車で駆けつけて下さり、いわき市を出発点として、富岡町から今なお放射線量の高い原発のある大熊町、双葉町、浪江町、南相馬町、飯館村、川俣町などを通って、二本松まで長時間案内して戴きました。



二本松の「あぶくま農と暮らし塾」に招かれての講演会

御縁のあるいわき市と飯館村

いわき市は、3・11後、保育園のお母さんたちが、子供たちに安全な野菜を食べさせたいという事で、去年まで、まほろば農園の野菜を送り続けて来たところです（今回は時間の関係で立ち寄れませんでした）

いわき市の保育園には、エリクサー基金で溜まったお金も使わせて戴いて、エリクサーを送りました。お客様には、改めて御礼申し上げたいと思います。

飯館村は、事故後、まほろばの浄水器『エリクサー』を

送りたいと申し出たのですが、断られてしまいました。まだその時は、エリクサーで放射能が除れるかどうか分からない時だったし、飯館村は、事故現場から遠く離れているにも関わらず、線量が高かったので、現場は混乱していました。無理ありません。

その後、大阪の嘉納さんが、放射線量の高い飯館村の「綿津見神社」の野池の水を、エリクサーに通水した水と、エリクサーを分解して、バックウオッシング後の濾材の残留放射能を、公的機関で分析してもらう事が出来ました。その結果、いずれも放射性セシウムは1ベクレル以下で不検出でした。



左へ曲がると南相馬・双葉町



ここから「綿津見神社」時間がないため訪問できなかった、残念。

あるべきでない光景

原発のある大熊町や双葉町では、線量が高いので、車を止める事や、窓を開ける事が許されません。リアルタイムに変る高い線量の表示計が至るところにあり、何となく不気味でした。見渡す限り、除染の作業員だけが働く姿があり、そこには除染物のフレコンが山積みされ、延々と並べられた異様な光景が続きます。離農した田畑は、高い草や柳が生え、立派な家があっても

住む人もなく、店があっても、郵便局があっても営業する人もなく、人通りも無く、そんな所で何の防護服も着けない警備員さんたちだけが、立ち入り禁止の入り口の要所要所に複数配置され警備しています。人を見てホッとすると、それが却って異様に映るのです。あるべきでない光景が、現実目の前にある事に対する心のブロックが異様に感じさせているようです。

先の見えない色々な考えが頭を巡ります

そんな中、一軒だけ営業している様子の食堂風の所があり、不思議に思って先生に尋ねると、線量の高い所で働く人たちの為に、そこだけが許可されているのだそうです。

一般の人たちが、車を止める事や、窓を開ける事も許されないところで働く人たち、さらに、警備員さえ立ち入る事も出来ない立ち入り禁止の中で働く人たちもいるのです。毎日、どんな思いで働いているのでしょうか？

使命感に燃えて、懸命に働いてくれているこの人たちが、ある日突然働く事を放棄して、逃げ出してしまったら、一体、日本の国は、いいえ、世



除染作業の幟。向こうに原発が見える。

界はどうなるのでしょうか？

政府は、高い給料さえ出せば、人の替えはいくらでもいると考えているのでしょうか？

それでも、何故原発を止めないのでしょうか？

いいえ、私たちが選挙で選んだ経済優先の政府です。

次から次へ、先の見えない色々な考えが頭を巡ります。

「それは違うよ」！！

「もう、半永久的に農地に復旧する事の出来ない線量の高いところに、ソーラーパネルを建てて、地域や東京に電力を送電するのはどうでしょうか？ 原発にもなるし・・・」

私がそれを言い終わるか終わらないうちに、不断



原発のある大熊町



至る所の商店街、コンビは閉鎖されている



「通行証確認中」の立て看板。普通車は通れない



一望、除染フレコンの山また山、ここまで津波が襲って来た

は優しい中島先生が、ビックリするようなきつい調子で、「それは違うよ」と毅然と言われたのです。私もはっとして我に帰りました。私はきっととんでもない事を言ったのです。

それは、利便性や、利害損得の『経済の論理』を超えた、百姓の土に対する郷愁や無念さに対するやり場の無い共感であり、どんな理屈も思惑も無い『農の論理』を逸脱した私の無神経な発言に対する、鉄槌のようでした。

18年間も毎日必死で農業をやってきて、分かっているようで分かっていなかった、いいえ、本当は分かっているのに、浅い所で物を言ってしまった私が恥ずかしく、後悔することしきりでした。それは結局、本当に分かっていないという事でした。

福島に行った最大の収穫

一方、決してブレない中島先生の根源的な生命観と、まっすぐ1本筋の通った論理の一貫性に直に触れたようで、感動的でした。

中島先生は、都市と農村の二極化に警鐘を鳴らし、



ここは、福島原発への入り口

全国に、自治と自給と相互扶助の美しい里山を取り戻す事こそが、人々の幸せや平和の原点であると提唱されて来ました。

原発であれ、ソーラーであれ、東京に福島から電気を送るという事自体が間違っているのです。私も中島先生と同じ考えだったはずなのに・・・現実の問題に向かったとき、完全に一元化されていなかった私のもろさが露呈されてしまいました。

中島先生有難うございました。これが福島に行った最大の収穫でした。



根本家の横では、物々しい除染作業が続く

78才の怪物! 根本さん

その後、車は同じく線量の高い浪江町を通り、南相馬市の小高という所に案内されました。ここは、現在『期間制限解除準備区域』に指定されている所で、昼間は、立ち入る事が出来るけれど、夜は、宿泊が許されていない地域でした。

そこで、根本洗一さんという78才の農家の方を紹介されました。3.11以後、4年間、南相馬で、たった一人、違反をものともせず、ずっと有機農業を続けて来られた方です。

夜も泊まられているとの事、何という人でしょう！78才とはとても思えない元気のいい、目のきれいな方でしたが、怪物としか思えないような気魄がありました。

東京の消費者との太いパイプもあり、中島先生や援農の茨城大の学生にも支えられ、毅然として大地に立っておられるのです。

来年の3月には、除染が終わり、生活も農業も出来るようになるそうですが、きっと、戻って来る人はほとんどいないだろうという事でした。

厳しい復興への道のり

いのししが異常繁殖して作物を食べてしまうので、根本さんの所では、畑も田んぼもすべて電木柵で守られていました。家畜の豚が野放しになり、いのししと自然交配したイノブタも異常繁殖の原因になっているそうです。

農機具も、4年も放置されていると、使えるようにするには整備が大変だそうです。

田んぼの離底盤が壊れるという事が・・・

また田んぼは、毎年使われなくなって、大きな草や木が生えてしまうと、根っこが田んぼの離底盤を壊し、水を入れても漏れてしまうようになり、



裏山では、重機が表土を剥がして行く



根本さんの納屋には採れたてのジャガイモなど一杯

お米が取れなくなるのだそうです。

もとの状態に戻るには3年はかかるとの事。

近所に今年から始めた農業試験場の実験農場があり、まだまだイネは小さく、水の必要な時ですが、4年も放置した田んぼは水が抜けて、今後の出来高は大して期待出来そうにありません。NHKがやぐらを組んで、カメラを設置して定期的に来ています。ドキュメンタリーでも制作するのでしょうか？

中島先生のジレンマ

100年以上もかけて作ってきた豊かな表土も除染で剥がされ、また、一から土作りをするのです。今では、風評被害で売れないお米を作るより、補償金をもらって離農する道を選ぶ人の方が多いそうです。

でも、生きていく為の苦汁の決断を、誰がそれを百姓でないと責める事が出来るのでしょうか？中島先生のジレンマもそこにあるように見えました。

意外と安全だった 被災地の田畑

根本さんの畑と田んぼを、それとなく0-1テストしてみました。意外と安全なのです！！放置された付近の草ぼうぼうの所も実験してみました。なんと！それほど悪くないのです。信じられないくらいです。北海道の除草剤のかかった田んぼや農道よりよほど良いのです。これはどういう事でしょうか？4年間も、農薬も化学肥料も使われなくなった大地の再生力なのでしょうか。免疫系に敏感な放射能の反応も余り無いのです。放置され、背の高い草が密集した所では、土壤微生物が豊かに繁殖し、農薬や放射能をどんどん分解し、死んだ土が生き返って来たのでしょうか？何か圧倒されるような大地のエネルギーを感じる事が出来ました。

放射能の問題を一律に論じる事はナンセンス

今日（7/30日）中嶋先生に伺って、分かったことなのですが、南相馬市の小高という所は、事故現場から20キロ圏内にあり、強制退去の地域にはなりませんが、気候や地形の関係で、もともと放射能の影響が少なかった所だったそうです（その逆は、飯館村で、遠くても高濃度）

また、土壤が雲母を多く含んでおり、物理的に放射能を吸着しやすいのだそうです。また、作物が吸収する場合に



根本さんのお宅にて、普通の生活が出来ている。だが、それは根本さんお一人だけ。

は、カリとセシウムは、競合関係にあり、カリが十分あるとセシウムはほっておいても吸収しないのだそうです。南相馬市の小高という所はカリが多いので、土壤中にセシウムがあっても、作物にはほとんど出ないそうです。

チェルノブイリはカリが少ない土壤なので、作物が放射能を吸収しやすいので、放射能の問題を一律に論じる事は出来ないとのこと。

また、有機物も放射能を電氣的に吸着し易いという事なので、有機農法の根本さんの作物はさらに安全なことになります。なーんだ！！でも、やっぱり0-1テストってすご〜い！！



根本さんと中嶋先生。ここだけに水田がある。

やっぱり、放射能はそう簡単に分解されないけど、条件次第で大人しくしてもらえますよね。

あの「美味しんぼ」(雁屋哲・作)第110巻『福島の実』に、中嶋先生ご自身がお出になって、大地が放射能を吸着し、作物に吸収されないメカニズムを説いておられました。また福島県小野町出身の小泉武夫先生も子供向け絵本「土の話」の中で、土中の微生物が放射能を分解することをも明かし、将来に希望を託しております。



小泉先生と黒田征太郎さんとの対談「土の話」



根本さんの畑にて、皆さん援濃に来られる

